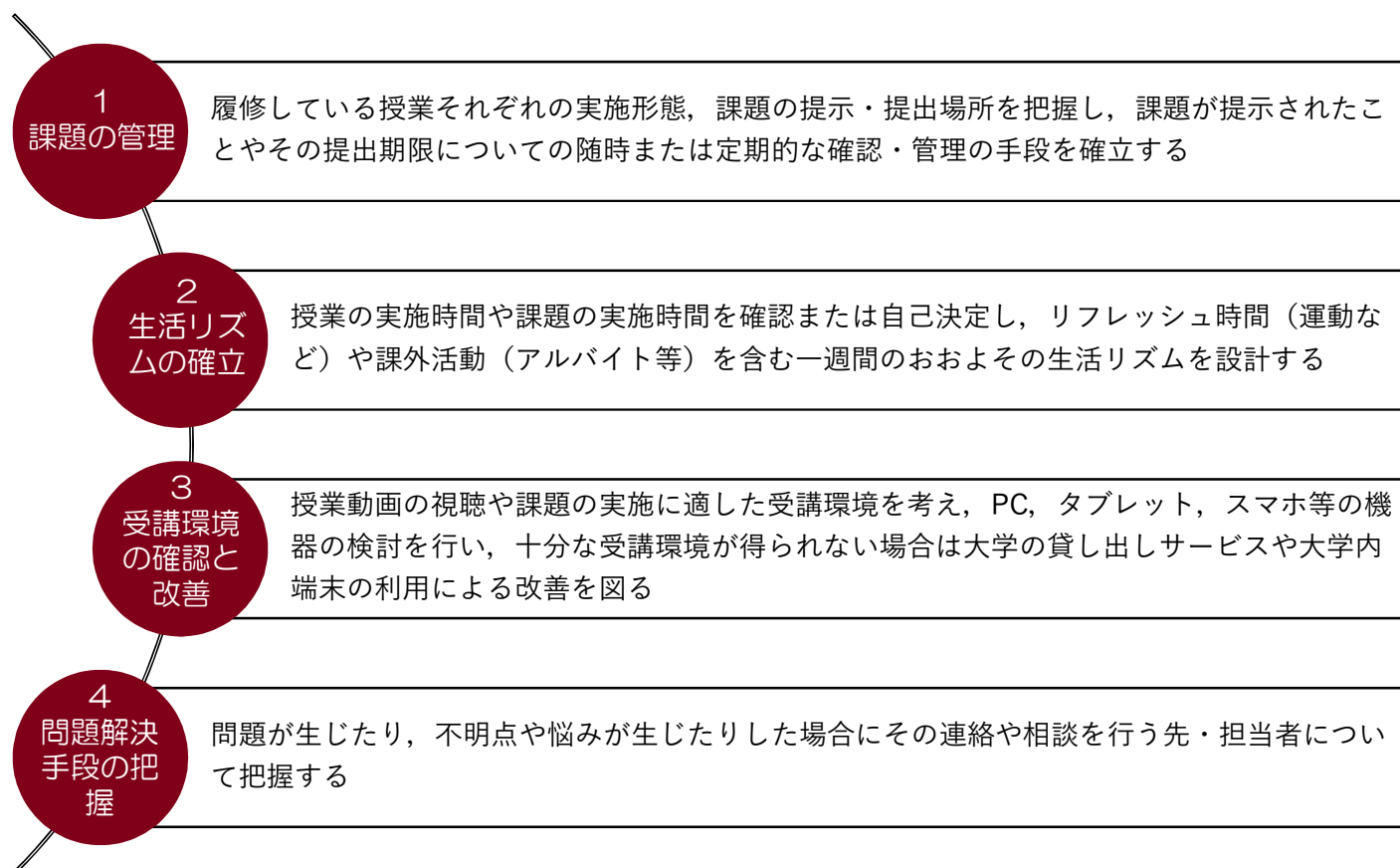


後期授業準備・実施ガイドライン（学生版）

2020年度後期の学修活動充実に向けて



授業に関する情報の提示場所

1. 奈良教育大学 授業・学生生活に関するポータル 在学生用 <https://www.nueinst.info/>
（大学公式Webサイト，学務情報掲示板，メールなどで提供された情報を集約していますが，すべての情報が提供元と同時に掲載されるわけではありませんのでご注意ください。授業で用いられる各システムの基本的な使い方についての解説ページもあります。）
2. 学務情報掲示板 <https://www.nara-edu.ac.jp/PRIVATE/KYOUUMU/gakumuindex.htm>
（学務情報システムからログインします。学内サイトのためVPNによる接続が必要ですが，メール配信もされますので，メールチェックの習慣をもってください。メール配信元は，noreply@morganite.nara-edu.ac.jpです。）



様々な悩みの解決，情報交換の場

遠隔での学生生活に関する総合窓口 <https://elearn.nara-edu.ac.jp/mod/forum/discuss.php?d=783>
（教務課，学生支援課，学生相談室，図書館など各所への窓口となっています。どこに相談していいのかわからない質問も「学生生活なんでも相談ボード」または「学生生活なんでも相談箱」にて受け付けています。また，ここには課外活動の情報も掲載しており，課外活動や先輩たちとのつながりの窓口ともなっています。）



1. 課題の管理

後期の授業でも、前期と同様多様なシステムや手段を用いた授業展開がなされます。後期には、非常勤講師も本学アカウントを利用できるようになり、全ての授業でTeamsの利用が可能となることから、Teamsを利用できないことによってzoomやskypeなどが活用されていた前期とは少し様子が変わります。しかし、各システムの機能や目的の違い（※）から、利用するシステムが一元化するということはありません。授業によってはメールや郵送での課題のやりとりが求められることもありますし、後期は開始当初から対面授業の実施が予定されており、対面授業で課された課題を管理していくことも求められるようになります。

前期と同様、複数の課題提示／提出方法が並行的に用いられることを前提として、以下のポイントごとに的確に課題管理していく手段を確立していきましょう。

ポイント1 授業ごとの講義実施、課題の提示・回収の方法を的確に把握する

手段の例：一週間の授業の一覧表を作成するなどして、再確認しやすいようにしておく

ポイント2 システムごとに課題や課題の提出期限の確認方法を決めておく

手段の例：全学ポートフォリオでは「授業の課題を提出する」から、Moodleでは「ダッシュボード」から、課題と課題の提出期限を一覧表示して確認する
：メールで課題が出されたり、課題に関する連絡事項が送られて来ていないか、メールは一日に一度はチェックする

ポイント3 出されている課題を一覧し、実施状況を確認する方法を決めておく

手段の例：スマホの予定管理アプリやメモ帳機能を使ってTo Doリストを作成する

※ 例えば全学ポートフォリオは「個人の学習記録を蓄積する」ことを目的に、Moodleは「授業での諸活動（資料配布、課題提示、課題の提出と受け取りなど）を他の受講者とともにインターネット上で共有する」ことを目的に開発されたシステム（コースマネジメントシステム）です。いずれの目的を重視するかによって授業で採用するシステムは必ずと異なってきます。

2. 生活リズムの確立

後期の授業でも、リアルタイムとオンデマンド（郵送等を含む）の非対面遠隔授業がともに展開されます。また、対面での授業も並行して実施される予定です。指定の授業時間帯に開講される授業をベースに、生活のリズムをしっかりと作ってください。一日中PCの前で座りっぱなしという状況は健康を害します。遠隔授業の多い人は、体を動かしてリフレッシュする時間もスケジュールに組み込むようにしましょう。

前期には、課題量が多いことによる時間・精神的な負担を感じた人が多かったようです。大学の単位制度には、「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準（とする）」という記載があり、2単位の授業では1週間当たり授業時間を含めて6時間の学習を要する（授業時間を2時間と計算しても、4時間の授業外学習時間を要する）ことが規定されており、教員側としては大学授業としての基準を考慮して課題設定をしているという側面があります。ただ、皆さんの負担が大きくなると後期の最後まで頑張り切れないという状況も理解しています。皆さんが授業評価アンケート等により大学に届けてくださった意見は大学がしっかりと受け止め、後期の授業担当教員らでも共有し、必要な改善は行っていききたいと思います。「経済的に困窮しアルバイトを増やさねばならないため課題実施が大変」といった意見も確認しましたが、学生のアルバイト時間確保のために課題量の配慮をするということは難しいです。別の手段でそういった状況を解決できないか、まずは相談してみてください。

以下にポイントをまとめておきます。履修科目のシラバスを確認しながら、後期の生活リズムを設計してみてください。

ポイント1 授業実施や課題提示の状況から、一週間のおおよそのスケジュールを立てる

手段の例：一週間の授業の一覧表をもとに自分自身の行動スケジュールを作成するなどして、着実に課題に取り組んでいけるようにする

ポイント2 遠隔授業が多い場合、運動やリフレッシュのためのタイミング・方法を決めておく

手段の例：1時間に一度は立ち上がって軽いストレッチをする、
：授業時間の終了時刻に合わせて外の景色を見たり目の体操をしたりする

ポイント3 生活が回っていかないような状況が生じたら、まずは相談する

手段の例：担当教員に課題提出遅延の相談をする
：学生支援課にさらなる経済的支援の可能性がないかを相談する

3. 受講環境の確認と改善

後期を迎えるにあたって、今一度受講環境の確認もしてみてください。「スマホで授業動画を見るのが大変だったけれど、なんとなく慣れてしまっただけでまあいいかとなっている」といったことはありませんか？本当にその学習環境に対応して充実した学びが得られる状況であればよいのですが、資料の閲覧、課題の実施、リアルタイムでの授業内活動への参加（ディスカッションの実施等）の状況をふり返り、学習環境に不十分な点があれば、改善を計画してみてください。

大学側でも前期期間中に準備を進め、貸し出し用のPCやタブレットをある程度準備しています。また、人数の制限がありますが情報館を利用することも可能です。さらに、前期期間中から、教務課で資料の郵送サービスも行っており、印刷して資料を使用することが求められる授業では、そのサービスを活用して皆さんに資料を届けるようなことも可能です。資料がデータで送られてくればプリンターが家にないという場合には、コンビニでの出力サービスや大学の端末室を利用した出力を利用することも可能です。前期の授業評価アンケートでは、送られてくる電子資料のページ数が多く、コンビニでのコピー代やプリンターのインク代がかなりかかったといった意見も寄せられました。受講生がそのような状況にあることは後期の授業担当教員らで共有していきたいと思いますが、皆さんからも、担当の先生や大学の窓口にご相談してみてください。

上述したことを以下にまとめておきます。自分にできる環境改善の手段を検討してみてください。

手段1 自分自身で可能な限りの環境改善を図る

(資料がよく見える大きめのサイズのタブレットを購入する、プリンターを購入する等)

手段2 大学からの貸し出しや支援を受けることを検討・相談する

(大学のPCやタブレットの貸与を受ける、大学の端末室を利用する等)

手段3 授業担当教員などに相談し、環境の不備への配慮を求める

(受講開始時に自身の学習環境について相談する、教務課に相談する等)

4. 問題解決手段の把握

なかなか大学構内に入れない、入れたとしても周囲の人との交流が最小限に制限されてしまう、といった状況は、「自然な問題解決」をできなくしてしまいます。対面授業が普通に実施されていた時には、休み時間や授業開始前のちょっとした雑談の中で課題の存在や取り組み方に関する情報を入手していたのに、それができなくなった結果、かなり困る事態に陥ってしまっただけから問題に気付くというようなことも生じているのではないのでしょうか。

前期期間から、大学ではいくつかの問題解決手段を用意しています。以下に主な手段をまとめておきますので、困ったときは利用してください。

手段1 授業担当の先生や担当窓口（教務課、学生支援課、図書館等）に相談する

用いる状況：問題が特定の授業のみで生じている場合には、まず授業担当の先生に相談してみましよう。多くの授業で同じ問題が生じており、なおかつその問題の担当窓口がわかる場合は、その窓口にご相談してみてください。レポートについては限定開館中の図書館も相談に乗ってくれます。

手段2 学年担当教員に相談する

用いる状況：所属専修での学びに関わる問題は、まず学年担当に相談してみてください。学年担当教員の先生は、ご自身でわかることはそのまま相談に応じ、わからないことは担当窓口等につなぐことを手伝える役割を担っています。

手段3 学生相談室 (<https://www.nara-edu.ac.jp/HOKENKANRI/counseling.html>) に相談する

用いる状況：心の問題については、学生相談室に相談してみてください。大学生の時期は様々なことに悩むことで成長していく時期です。遠隔授業かどうかにかかわらず、様々な心の問題は出てくると思いますので、積極的に利用してください。

手段4 「学生相談なんでも相談ボード／なんでも相談箱」に投稿する

用いる状況：どこに相談したらいいのか皆目見当もつかない、見当はついてはいるけれどもそこに相談することがなかなかできないといった場合には、Moodleの「遠隔での学生生活に関する総合窓口」上に設けてある「なんでも相談」を利用してください。担当者が問題解決へのお手伝いをします。